

祝辞 父母と先生の会会長 山中康裕

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。また、保護者のみなさまにも、心よりお祝いを申し上げます。先生方におかれましても、コロナ禍による、大変なご苦労があったと思います。改めて、お礼申し上げます。

みなさんは、1年生のとき、簡素な入学式のあと、登校できない日々が5月末まで続き、高校生活は、かつてないスタートを切りました。私たちは、予防対策の徹底やワクチン接種など、新型コロナウイルスとの付き合い方を模索してきました。その中で、2年生の北高祭の行灯行列や花火、京都への修学旅行、3年生の高校野球の全校応援など、先生方やみなさんの努力の結果、みなさんは、高校での思い出をたくさん作ることができたと思います。

そして、本日、吹奏楽部・合唱部も参加する、素敵な卒業式を迎えることができました。このような卒業式を迎えられることを、ここに居るみなさまとともに嬉しく思います。

きのう、みなさんに配られたPTA広報誌「我が学び舎」に、「青色しか見えない人はそのことを認識できない」という文章を載せていただきました。

この言葉は、米国のベンジャミン・ウォーフが1940年に発表した論文「科学と言語学」の一節です。大学1年生の英語の授業のとき、これを読まされた私にとって、その先生が言語学の権威だったとか、約40年たった今も記憶しているとか、その当時、想像すらも出来ませんでした。

青しか見えない人にとっては、青色の強弱のモノトーンの世界です。彼らにとって真っ黒だったとしても、赤や緑が見えている人にとっては、真っ赤や真緑かもしれません。

ここで、色を、価値や出会いに置き換えてみましょう。多くの人にとって「価値がない」と見なす何か、ある人にとっては、大切なものとして見えるかもしれません。

「テストの点＝合格・不合格」はひとつの色に過ぎません。みなさんが何かに出会い、人生が変わったならば、それは、新しい色を見つけた瞬間かも知れません。

私は、高校卒業から2年後に、ようやく大学生になりました。学部1,2年生の時、教養(リベラルアーツ)の、様々な色を知りました。その後、(ノーベル物理学賞を受賞した)真鍋淑郎先生の研究という、素敵な色に出会い、学部卒業から2年後に、大学教員になりました。

これは、与えられた問題を正確に解く能力から、誰も気がつかなかった問題を作り出す能力へ、いわば青の世界から様々な色を作り出す世界へ、私にとってのゲームチェンジでした。

青・赤・緑という光の3原色は、S・M・Lという3つの網膜にある錐体(すいたい)細胞に対応します。多くの哺乳類が2つしか持たないのに、人類は、進化の過程で、Lを獲得しました。その副産物として、日本では

男性の約5%が、LかMを持たず、赤と緑の区別が難しい経験を日々しています。統計学の「大数の法則」により、必ず、そのような方が、この場にも、おられるはずです。

一般的に、色覚異常という言葉が用いられます。カラーユニバーサルデザインに関わる人々は、正常・異常というよりも、「血液型A・B型のように、C・P・D型と呼ぶこと」を求めています。印象派の画家フィンセント・ファン・ゴッホの「特徴的な色使い」は、P型の人見え方だそうです。これも多様性(ダイバーシティ)と、その捉え方の一例です。

「当たり前を疑うこと」は、批判的思考です。みなさんは、北高の校訓「寛容・進取・良識」のもと、身につけたと思います。それ以上に難しいのは、気が付かない「当たり前」を減らすことです。ひとつは、自分の考えを伝え、他者の考えを聴くこと、すなわち、対話、および、多様性(ダイバーシティ)を大切にすることです。

もうひとつは、広い世界を知ることです。先ほどの論文には、「サピアーウォーフの仮説」として知られる「思考や概念は、言語や文化による影響を受けていること」が書かれています。

卒業生のみなさん、これからの人生で、海外に出たり、多くの人と出会ったりして、自分のアイデンティティや他者のダイバーシティを知って欲しいと思います。

多くの人が集まる会議や組織において、「男女比が、およそ50:50(フィフティ・フィフティ)になっていない」とすれば、「大数の法則」により、必ずファクターXがあるはずです。ジェンダー平等を実現する対処療法として、クォータ制を導入することもありえます。と同時に、根本治療法もせねばなりません。すなわち、無数の「無意識の偏見」(unconscious bias)を見つけ、正していくことが求められます。

気候変動に対する根本治療法は、人間活動に伴うCO₂排出を減らすことです。国際社会では、全ての活動に伴うCO₂排出量を証明することが求められつつあります。「気候正義」(Climate Justice)という「気候変動対策を取らないことは、影響を受ける次世代や途上国の人々への人権侵害である」ということも、もはや世界共通認識です。

これらは、新しい色に気づき、気が付かなかった「当たり前」を問い直すことを意味します。

親として、子供が、保育園・幼稚園・小学校・中学校・高校と育っていく中で、様々な人生経験をさせていただきました。人生にとって大切な色に気づかせてくれました。子供に「生まれてきてありがとう。これからもよろしくね」と伝えたいと思います。

みなさんが、北高で学びを得た者の責務として、社会の主演として活躍することを望みます。と同時に、「人生の主演はみなさん」です。自分自身のウェルビーイングも大切にしてください。「みなさんのこれからの彩り豊かな人生に幸あれ！」

以上、卒業式の祝辞とさせていただきます。本日は、卒業生のみなさん、おめでとうございます。